

心理学的な理論と支援(社会心理学)	単位数	履修方法(授業形態)	配当学年
	4単位	R	1・2年
	担当教員	吉田 綾乃	

■授業のテーマ

社会的認知の観点に基づく人間行動の理解

■授業の目的

人間の社会的認知構造とプロセスを理解し、多様な社会的文脈における私たちの判断、行動、人間関係等をよりよく先導するための道筋について考える枠組みを身につけることを目的とする。

■授業の到達目標

- 1) 人間の行動を社会的認知の観点から説明できる。
- 2) 社会心理学における人間観の変遷について、その歴史的経過とともに説明できる。
- 3) 偏見などの生起メカニズムについて、社会的認知研究の観点から具体的に考察できる。

■授業の概要

社会的認知 (social cognition) とは、私たちが人間が、どのように他者や自分自身、それらを取り囲む社会、さらには社会において生じるさまざまな出来事をどのように理解しているのかを明らかにしようとする研究分野です。私たちは、日常生活のなかで他者をどのように知覚し、印象を形成し、彼らの意見や行動をどのように予想したり、判断したりしているのでしょうか。また、私達は自分自身のことをどのように思っているのでしょうか。あるいは、自分とは異なる民族や国民に対して、どのような考えを持ち、行動を選択しているのでしょうか。この授業では、私たちの心の中で生じているこのような認知過程を直接、問題にし、情報处理的な観点からその現象を解明しようとする社会的認知研究のアプローチに基づいた社会心理学的研究について学びます。

■在宅学修15のポイント

	テーマ(テキスト関連章)	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
1	イントロダクション (1章)	社会的認知研究の特徴、社会的認知における脳と文化の重要性	社会的認知研究のアプローチの特徴、社会的認知における社会的思考者のモデルについて、その変遷とともに学びます。
2	社会的認知におけるデュアルモード (2章)	自動過程、統制過程、プライミング	自動過程と統制過程の種類と特徴を学びます。
3	注意と符号化 (3章)	注意、符号化、アクセシビリティ	人の注意を引き付ける要因、注意が記憶に符合する内容を決定するメカニズムを学びます。
4	記憶における表象 (4章)	心的表象、連合ネットワーク、並列処理と逐次処理、身体化記憶	社会的記憶の連合ネットワークモデルと記憶に関する基礎的な認知モデル、記憶プロセスについて学びます。
5	社会的認知における自己 (5章)	自己の心的表象、自己制御、動機づけと自己制御	自己概念に付随する認知、感情、目標が社会的文脈によって変化すること、動機づけと自己制御の関連について学びます。
6	帰属過程 (6章)	帰属過程、帰属理論、帰属のバイアス	帰属に関する代表的な理論と帰属過程におけるバイアスについて学びます。

	テーマ(テキスト関連章)	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
7	ヒューリスティクスとショートカット (7章)	期待効用理論、ヒューリスティクスの利用と誤用、長期的な判断	ヒューリスティクスの利用と誤用、推論における時間の重要性について学びます。
8	社会的推論の正確さと効率性 (8章)	推論のエラーとバイアス、熟慮判断、神経経済学	社会的推論におけるエラーに対する複数の視点と、神経経済学における社会的推論研究について学びます。
9	態度の認知構造 (9章)	一貫性理論、態度変容、態度の機能的特性	態度に関する伝統的な理論、態度変容のメカニズム、態度の機能について学びます。
10	態度に関する認知的処理 (10章)	ヒューリスティック・システムティック・モデル、精緻化見込みモデル、潜在的連合	近年の態度理論と、態度形成、変容、運用に関する意識的・自動的な情報処理について学びます。
11	ステレオタイプ化 (11章)	ステレオタイプ化、バイアスの効果	露骨なステレオタイプと微妙なステレオタイプの背景にある情報処理メカニズムと、バイアスの効果について学びます。
12	偏見 (12章)	人種の偏見、ジェンダー偏見、年齢偏見、性的偏見	人種、性別、年齢、性的志向の4カテゴリーを対象に、集団間の認知パターンが特定の情動と行動を導くことを学びます。
13	社会的認知から感情へ (13章)	感情類似概念の区別、情動の生理学的理論	初期の情動理論、情動の生理学的理論、神経学的理論、社会的認知理論について学びます。
14	感情から社会的認知へ (14章)	認知に対する感情の影響、「感情」対「認知」	感情がさまざまな人々の思考や記憶、信念、選択に影響を与えること、その個人差について学びます。
15	行動と認知 (15章)	目標志向行動、印象操作、仮説検証と行動	行動と認知の関連性について、行動制御の自動的活性化、状況手がかりの自動的評価などの観点から学びます。

■レポート課題

課題 1	社会心理学は、これまで5つの人間観を見出してきた。1950～1960年代の一貫性追求者モデル、1970年代の素朴科学者モデル、1980年代の認知的倏約家モデル、1990年代の動機づけられた戦略家モデル、2000年代の駆動される行為者モデルである。それぞれのモデルが見出された研究背景について関連する理論を紹介しながら説明しなさい。また、駆動される行為者モデルの観点に基づいた、研究事例をひとつ挙げ、その内容に対する自身の考えを述べなさい。
課題 2	自己、他者、外集団成員のいずれかひとつを選択し、その対象に対する人間の推論過程について、自動処理と統制処理の観点から説明しなさい。また、短期的・長期的観点から、人間がより良い推論を行うための方略について考察し、自身の考えを述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

課題 1 アドバイス

参考文献の12ページに掲載されている表1.1を確認してください。レポートでは5つのモデルがどのような人間観を示しているのか具体的に論じた上で、そのモデルが見出された研究背景について説明するようにしましょう。表1.1をレポートに示すのではなく、ご自身の言葉で各モデルの特徴について論じてください。5つのモデルを理解するために、関連する理論が紹介されている参考書の各章をしっかりと読みこむ必要があります。レポートの中で理論や先行研究の知見を紹介する際は、心理学分野の引用ルールに則り、出典を明記するようにしてください。駆動される行為者モデルの観点から行われた研究は数多くありますが、研究事例の選択に迷われた場合は、プライミング、潜在連合、潜在連合テストなどをキーワードに検索すると良いでしょう。

課題 2 アドバイス

自己、他者、外集団成員という3つの選択肢からひとつを選ぶ場合、他者と外集団成員については具体的に示して下さい。「他者」が初対面の相手か、家族などの重要他者であるかによって推論過程は異なります。「外集団成員」も、性別が異なる人々であるのか、文化的背景が異なる人々であるのか等に

よって予測される推論過程が異なるため、具体的に示して下さい。自動処理と統制処理の違いを大まかに理解するためには参考文献の53ページ、表2.3が参考になります。自己について論じる場合は5章、他者や外集団成員について論じる場合は11章や12章が参考になります。人間のより良い推論について考察する際は7章と8章が参考になるでしょう。なお、レポートでは、自身の考えと第三者の考えは明確に区別して論じてください。

■評価の方法・基準

課題レポート60%（各レポート30%）、試験レポート40%

■参考文献（*印=大学から送付される必読図書）

- *1) S.T フィスク、S.E テイラー著 宮本聡介ほか編訳 2013年 『社会的認知研究 脳から文化まで』 北大路出版
- 2) 唐沢 穰ほか著 2001年 『社会的認知の心理学 社会を描く心のはたらき』 ナカニシヤ出版
- 3) 上瀬由美子著 2002年 『ステレオタイプの社会心理学 偏見の解消にむけて』 サイエンス社
- 4) 岡 隆編 2004年 『社会的認知研究のパースペクティブ 心と社会のインターフェイス』 培風館
- 5) 大島 尚・北村英哉編著 2004年 『認知の社会心理学』 北樹出版
- 6) 北村英哉著 2004年 『認知と感情 理性の復権を求めて』 ナカニシヤ出版
- 7) ジョン・バージ編 及川昌典ほか編訳 2009年 『無意識と社会心理学 高次心理過程の自動性』 ナカニシヤ出版
- 8) 池上知子著 2012年 『格差と序列の心理学 平等主義のパラドクス』 ミネルヴァ書房
- 9) 潮村公弘著 2016年 『自分の中の隠された心 非意識的態度の社会心理学』 サイエンス社
- 10) 北村英哉・唐沢 穰編 2018年 『偏見や差別はなぜ起こる？ 心理メカニズムの解明と現象の分析』 ちとせプレス